

令和6年度第1回平塚市下水道運営審議会 会議記録

(確認者 西田会長、加藤会長職務代理者)

日 時 令和6年8月20日(火) 13:30～14:40
場 所 平塚市庁舎本館5階519会議室

出席委員 10人
西田会長、加藤会長職務代理者、渡部委員、岡崎委員、五十嵐委員
島田委員、小宮委員、高橋委員、石黒委員、枝川委員

事務局 11人
土木部 田中部長
下水道経営課 飯田課長、後藤課長代理、内海課長代理、澤野課長代理
石丸主査、關主査
下水道整備課 小川課長、谷田部課長代理、長谷川課長代理、向川主管

傍聴者 0人

議題

- (1) 会長職務代理者の選任について
- (2) 報告事項
 - 報告1 平塚市下水道事業経営戦略 令和5年度進捗状況について
 - 報告2 令和5年度公共下水道使用料の検証について
 - 報告3 平塚市総合浸水対策第3次実施計画について
 - 報告4 平塚市下水道施設耐震長寿命化計画について
- (3) その他

配布資料

- (1) 令和6年度第1回平塚市下水道運営審議会次第
- (2) 平塚市下水道事業経営戦略 令和5年度進捗状況報告書
- (3) 平塚市下水道事業公共下水道使用料の検証について(令和5年度)
- (4) 平塚市総合浸水対策第3次実施計画
- (5) 平塚市総合浸水対策第3次実施計画(概要版)
- (6) 平塚市下水道施設耐震長寿命化計画
- (7) 平塚市下水道施設耐震長寿命化計画(概要版)
- (8) 下水道事業広報紙「ひらつかの下水道」第2号(見本)

- 委員の交代について事務局から説明、委嘱状の交付
- 会議の公開について事務局から説明

事務局

次に、(1) 会長職務代理者の選任についてです。会長職務代理者におかれましては、前委員の山田修様にお引き受けいただいておりますので、新たに選任いただくこととなります。

選任は、平塚市下水道運営審議会規則第4条第3項の規定により会長が指名すること

となっております。西田会長、ご指名をお願いいたします。

会長

下水道事業と同じ公営企業である神奈川県企業庁平塚水道営業所の加藤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 加藤委員から了承の返事あり -

事務局

ありがとうございます。それでは、会長職務代理者は加藤委員にお願いしたいと思います。

これより先の議事進行は、平塚市下水道運営審議会規則第5条第1項の規定により、会長が会議の議長となりますので、西田会長の進行で、これからの議事を進めていただきたいと思います。

会長

それでは次第に従いまして、(2) 報告事項に入らせていただきます。報告1の平塚市下水道事業経営戦略、令和5年度進捗状況について、事務局から説明をお願いいたします。

- 報告1「平塚市下水道事業経営戦略 令和5年度進捗状況について」を事務局から説明 -

会長

ただいまの事務局の説明について、何か御質問等がおありでしょうか。

無いようですので私からお伺いします。まず決算の状況について、未達成であったものが2項目、経費回収率及び汚水処理原価ですが、こちらが未達成であった理由を教えてくださいいただけますでしょうか。これが1点目です。

それから、5ページに活動指標が3つございますが、「組織・人材」の労働生産性が少し下がっているのですが、職員数が増加したためであるという説明がありました。なぜ今年度、労働生産性がこの数字になるほどに職員数が増加したのか、について説明していただければと思います。

事務局

まず、経費回収率と汚水処理原価の未達成ですが、経費回収率については、使用料で回収すべき経費を使用料でどの程度賄えているか、を示す指標でございます。こちらは、主に動力費の安定により汚水処理費が減少したことはあるのですが、その一方で、物価の高騰といった影響を受けた側面があり、その影響により、未達成となったと認識しております。こちらは、汚水処理原価についても同様の理由と考えております。

続きまして、労働生産性については、営業収益を損益勘定職員数で割ることで算出しておりますが、令和5年度の営業収益は前年度と比べて約1.2億円減少いたしました。これに加え、この期間に職員数が前年度と比べて1名増加したために、未達成となったのですが、これは育児休業を取得した職員が復職しており、1人増えたためと認識しております。

会長

ありがとうございます。その他何か御質問等がおありでしょうか。

委員

3 ページ目のところですが、これは企業会計でやっていますよね。本当は財務諸表を出さないといけないのではないですか。財務諸表があるところの内容は一目でわかります。企業会計の場合、キャッシュフロー図などは必要じゃないかと思います。当然あるのですが、それを基にこれは作られているわけですから、そういった資料が必要じゃないかというのが1点です。

もう1点が労働生産性ですが、これは営業収益を分子に持ってきていますが、生産性という場合は付加価値を持ってくるのではないかと思います。そうすると、この数年間にいろいろ投資していますから、例えば、機械化されたとか、或いは資本の充実というものもあると思います。だから、資本に対する寄与分と、それから労働に対する寄与分と、あと全生産性要素、そういったものがあると思います。そこで、営業収益だけで労働生産性を単純に計算されると、人数が減ったり増えたりするだけで影響が出てくるので、あまり良くないのではないかという感じがします。その点いかがでしょうか。

事務局

今御指摘いただいた、財務諸表やキャッシュフローについては、別に決算書を作成しておりまして、今後、議会の審議等を経て認定された段階で、ホームページの方に公表いたします。

それから、労働生産性の考え方ですが、現在の経営戦略の中では、御説明させていただいたような捉え方で設定をしているのですが、今後改定もございますので、その中で御意見を踏まえまして、検討させていただきたいと考えております。

委員

今、日本は生産性が低い低いと言っていて、それでいろんな方が計算をしていますが、普通は付加価値で計算されています。だから、企業会計である以上は、単なるこの収益だけとかではなく、或いは人の数だけではなく、もちろんそれも計算の過程の中に入ってくるけれども、一般的に使われているようなものを使われた方がよろしいのではないかという感じがします。

会長

その他いかがでしょうか。それでは、これで報告1の「平塚市下水道事業経営戦略 令和5年度進捗状況について」を終わらせていただきます。次に、報告2「令和5年度公共下水道使用料の検証について」です。事務局から説明をお願いいたします。

- 報告2「令和5年度公共下水道使用料の検証について」を事務局から説明 -

会長

ただいまの事務局の説明について、御質問等がおありでしょうか。

委員

令和5年度の経費回収率は推計では100.5%で、決算見込みでは115.1%ということで、15%ほど高くなっています。ただ3年間の始めの年なので、何とも言えない部分になると思いますが、このまま経費回収率が高い状態が継続した場合に、例え

ば使用料を下げるという考えがあるのか、或いは最近耐震化の問題等もありますので、そういった施設の改修工事に使っていくのか、そのあたりのお考えがあればお伺いしたい。

事務局

ただいま、経費回収率に関連して、将来的には使用料を値下げするといったような場合もあるのかというお話でございました。長期的に経営戦略では予測をしております、令和20年代になりますと、更新投資の増大によって、赤字になるというようなことも一つ懸念されております。それに向けまして、現段階としては、できるだけ内部留保といいますか、資金の確保に努めまして、将来の更新投資の増大に備えていきたいと考えております。

会長

他にございますでしょうか。

無ければ私から追加で質問させていただきます。5ページの細かく数字が出ている箇所、維持管理費については減少していると思うのですが、内訳を見ますと、例えばその他の経費等は、令和4年と比べるとかなり増えているようです。それに関しては、先ほど説明があった部分と重複するのかもしれませんが、何か理由があるのか教えていただけますか。

事務局

その他の経費が増加をしているのですが、こちらは主に職員給与費で、人の入れ替わり等があり増加しているというところが、この項目、その他の経費、業務費等の中に含まれているものでございます。

会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。それでは、これで報告2の「令和5年度公共下水道使用料の検証について」を終わらせていただきます。次に、報告3「平塚市総合浸水対策第3次実施計画について」です。事務局から説明をお願いいたします。

- 報告3「平塚市総合浸水対策第3次実施計画について」を事務局から説明 -

会長

ただいまの事務局の説明について、何か御質問等がおありでしょうか。

委員

流域治水ですが、資料には近隣自治体と流域住民で構成している協議会と記載されていますが、具体的に流域住民というのはどういう方達になるのでしょうか。

事務局

まずこの流域治水という考え方は、今までの河川管理者の取組だけではなく、流域に関係する人達全員で治水対策を進めていこうという考えのものになります。流域住民にやっていただくものとしては、建物を建てるなど敷地内に浸透枳を設置していただくことなどがあります。協議会の構成員に入っているというわけではないのですが、住民自体にもそういった役割の中で、流出抑制をしていただくということを考えているものです。

委員

その協議会は定期的にやられているのですか。

事務局

流域治水協議会は定期的に行っておりまして、本市は相模川の流域治水協議会と金目川水系の流域治水協議会に参加しており、活動を行っております。

委員

ありがとうございます。

会長

その他いかがでしょうか。では、私から一つ質問させていただきます。いわゆる公助と自助があるかと思います。自助の部分でもいろいろな制度的な支援をおそくなさっていると思うのですが、実際個人でやらなければいけないような、例えばマイ・タイムラインの準備等に関して、何か支援的なものをしている、或いはする計画がありましたら教えてください。

事務局

マイ・タイムラインについては、災害対策の部署と連携しておりまして、地域の防災活動、そういったところに市の職員が行きまして、内水や洪水など、いろいろなハザードマップを基に、実際にマイ・タイムラインの作成を広め、庁内で連携した取組を行っております。

会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員

私が住んでいるところは比較的大きい家が多く、大体庭は土のままです。ところがそういう家が減り、小さい家ばかり建ってしまう。そうするとほとんど庭がなく、コンクリートで家の周りを打ち込んでいる。その結果、雨水が来ても全部道路の方に流れてしまう。このようなことを考えると、これは下水道関係だけではなく、住宅政策というのか、そちらの方とも関係があるような気がするのですが、住宅部局などとの関連については何かあるのでしょうか。

事務局

下水道計画を立てるときに、住宅から出てくる雨の量というのも加味して、何割ぐらいの雨が道路の方に流出するというのを計算しております。それに加えて、住宅を建築されるときは、住宅関係者が関係部署と協議を行うのですが、下水道の部署では、雨水枳を浸透式にしてもらうなどの指導をしております。そういったところで、宅地内の流出抑制を今までも図っておりますし、今後もそういう指導はさせていただきたいと考えております。

委員

わかりました。

会長

その他いかがでしょうか。それではこれで報告3の「平塚市総合浸水対策第3次実施計画について」を終わらせていただきます。次に、報告4「平塚市下水道施設耐震長寿命化計画について」事務局から説明をお願いいたします。

- 報告4「平塚市下水道施設耐震長寿命化計画について」を事務局から説明 -

会長

ただいまの事務局の説明について、何か御質問等がおありでしょうか。

委員

先ほど御説明いただいた中に、能登半島地震でトイレが使えなくなった話がありました。いまだに能登半島の方ではトイレが使えない状況が続いているようです。また、最近では地震も多く、天候も不安定な状況があり、市民の耐震化に対する関心も高まっていると思います。管路の耐震化の優先順位として、国道1号線や129号線から行っているということは分かるのですが、避難所等の人が集まる施設に関してもトイレが使える必要はあると思うので、そういう所に対する管路の耐震化の手当の考えはないでしょうか。

事務局

耐震化の優先順位としましては、今おっしゃっていましたが、国道1号とか129号の緊急輸送道路の下に埋設されている管路、あとは救急病院とか避難所、そういった防災拠点施設に繋がる路線についても、優先順位を高くして行っております。実際、今年から防災拠点施設へ繋がる管路の耐震診断も実施しております。市で管理している下水道施設の耐震化もありますが、避難所などでは、マンホールトイレを防災の部署が下水道の部署と連携して進めております。今後もそういった取組を進めていきたいと考えております。

委員

安心しました、ありがとうございます。

会長

その他いかがでしょうか。それではこれで報告4の「平塚市下水道施設耐震長寿命化計画について」を終わらせていただきます。次に、次第の3「その他」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局

まず、次の審議会の開催予定をお知らせさせていただきます。第2回の平塚市下水道運営審議会を10月上旬頃で開催を予定しております。議題については、平塚市の吉原地区の公共下水道整備に伴う下水道事業分担金について、平塚都市計画下水道事業受益者負担金及び下水道事業分担金条例の一部を改正するという事で、審議会の意見を求めるものでございます。委員の皆様には改めて御出席の依頼をさせていただきます。

あともう1点、机上に配布させていただきましたが、下水道事業の広報についてです。市民の皆様には下水道のことをより知っていただくというところで、今年の3月に下水道広報紙「ひらつかの下水道」第1号を発行いたしました。本日お配りさせていただきましたのが、この9月発行予定の第2号の見本になります。広報ひらつかと合わせて、

9月4日以降に配布することとしております。現在は配布前ということで、広報紙の表紙のところに見本という赤い判を押させていただいております。取り扱いには御注意いただければと思います。広報紙は、今後、毎年度1回程度を目安に発行を予定しております。事務局からその他について、説明は以上でございます。

会長

ただいまの事務局の説明について、何か御質問等おありでしょうか。

委員

私は国などの他の審議会委員もやらせていただいたのですが、大体日程は調整されるのですが、こちらは調整をあまりやらないのですか。皆さんに日程表を送って、○か×かつけて送り返してくださいというのをどこの役所でもやっていたと思うのですが、そういうことはやらないのでしょうか。

事務局

そういった配慮を事務局で行き届かなくて大変申し訳ありませんでした。日程については、できるだけ委員の皆様全員に御出席いただけるよう、事前に御都合を伺って、対応できるよう努めて参りたいと思います。

ただ、次回10月の審議会については、先ほど課長代理から条例の改正というお話をさせていただきました。条例の改正については、議会の議決事項になり、議会の上程のスケジュールに合わせて、逆算して開催するような形もありますので、なるべく早くお知らせをして、委員の皆様には御出席いただけるように努めていきたいと思いますので、今後対応を考えていきたいと思います。

委員

広報ですが、とても分かりやすいものを作成していただきありがとうございます。一つだけ教えていただきたいです。広報の中でX（旧ツイッター）について記載されているのですが、昨年下水道ふれあいまつりに参加させていただいたのですが、Xとかインスタグラムで周知をしたため沢山来ていただけたというのを文書で読み、探したのですが、何で検索すればいいのか見つかりませんでしたので、教えていただけますか。

事務局

Xは平塚市のホームページにここから登録できますという箇所があります。他にも例えば、広報ひらつかにも掲載があったりします。そこから登録していただいた上で、平塚市公式アカウントから情報を発信している状況でございます。

委員

広報ひらつかに掲載というのは。

事務局

初めて登録する方は、ここでやってくださいというのが分かるようにしております。

委員

下水道ふれあいまつりについては、県、それから市町、それから下水道公社の共催で実施するのですが、その広報に関しては、各市町、県に広報をお願いしているのと、下水道公社のホームページに掲載をしております。

委員

ありがとうございます。

事務局

補足させてください。イベント等の御案内の仕方ですが、1番はやはり広報ひらつかに載せさせていただく。関連機関が主催するものであっても市も一緒にやっていますので、広報紙に載せて全世帯配布をしております。

SNSに関しては、それぞれ皆さんが各SNSの媒体に登録しているかというところがありますが、先ほどのXは平塚市公式のXに登録していただければ御覧いただけます。市はXや、フェイスブック、LINEでもお知らせをしておりますので、幅広い媒体で御案内するようにしています。どれかに登録をしていれば情報が届きますので、できるだけ幅広い媒体で様々なお知らせをしていきたいところです。

委員

ちなみに今年は下水道ふれあいまつりは平塚ではなく、茅ヶ崎の柳島の水再生センターで開催されます。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

内水のハザードマップですが、最近は大雨が頻繁に起きており、或いは雨水の量がすごく多く、この浸水の深さというのはどういう形で調べているのですか。

事務局

こちらの内水ハザードマップについては、国土地理院が出している地盤高というのがあるのですが、それを基に平塚市の地形をある程度決まった大きさにメッシュ状に切りまして、その切ったポイントに対して、想定される浸水の高さを測るようになっていきます。

雨の降り方は、今回の内水ハザードマップは令和4年6月に作ったものが最新のものになりますが、関東地方で降った最大の雨、1時間当たり153mmの雨、これは国から言われているものになるのですが、この雨をシミュレーションで降らした時に、国土地理院が出した地盤高などを基にしたシミュレーション上、どれぐらいの水が浸水するのかというところで出しています。

これは、整備されている下水道の色々な管の状況等も踏まえた中でシミュレーションを行っています。ちなみに平塚市で降った既往最大の雨というのは、1時間当たり70.5mmになっておりますので、この内水ハザードマップについては本当にハイリスクの色の着き方で出している状況です。

委員

ただ、実際には多分すごく深いところがいっぱいできている。内水が本当に捌けていけない状況が起きているので、それを実際に調べているのかをお聞きしたい。シミュレーションというのは分かるのですが、場所によって全然違って、地域の中でも深いところ浅いところとあって、全体的な見方とは違う状況が起きているというのが実情だと思うのです。そのあたりの表し方というのは、ハザードマップを作るにあたり、本当

に大雨が降った時に調べて、それを報告して、このように出す形にする。そうするとこれに反映されるのかなと思います。

事務局

このハザードマップは想定のもので作っているのですが、実際に大雨が降った時は、職員で現場の浸水状況を調査し、また雨が終わった後も痕跡調査をして、状況は極力把握をしているつもりです。実際の雨の降り方と、シミュレーション上による想定雨の降り方というのは違うところもありますが、実際の地形状況などをデータの方では勘案しております。

委員

避難所があるのですが、場所的に雨が降った時は避難所に行けないという状況になってしまっているのか、それでお聞きしたかったのです。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

平塚市で管理しているポンプ場設備の中で耐用年数の近いものがあるかと思います。長寿命化もいろいろと考え方があり、例えば消耗品を定期的に交換して耐用年数を延ばしていくものもありますが、耐用年数は決まっているので、そこからさらに長寿命化するというのは、機械においては負担がかかってしまうので限度があると思います。

だから、実際にその機械において、耐用年数をメーカーから教えてもらっていて、メンテナンス部品のリストを出してもらって管理されているのかを教えてください。下水処理、特にポンプ場に納めているコンベア類とか除塵機、ホッパーとかは、家電のように簡単には交換はできないので、そのあたりの機器ごとの耐用年数を把握できているのか。そこが分からないと計画が立っていかないのではと思うのですが、そのあたりの管理はされているのですか。

事務局

機械設備と電気設備等も含めて、ポンプ場の部材リストは細かく出してあります。今、全部で1500ぐらいの施設、設備があるのですが、それぞれの耐用年数は全部出しています。その耐用年数について、優先順位を決めて、計画的に予防保全の観点から長寿命化を図ることにはしているのですが、長寿命化の考え方としては、消耗品や備品を取り換えるというやり方の中にはありますが、下水道施設なので、例えばエンジン丸ごと取り換えるとか、そういったこともあります。そのあたりについては、事業費の平準化を図りながらやっていく必要がありますので、バランスを見ながら、これまでも計画的に取り組んでいますし、今後も取り組んでまいります。

委員

大体、機械の耐用年数はどれぐらいで考えているのですか。

事務局

物により変わってくるのですが、最初にメーカーで納めてもらった時に、市の方で資材リストに記載し、それに基づいて行っています。機械は比較的、電気設備に比べれば長いのですが、物によって結構変わるので、一概に何年というのは申し上げにくいので

すが、そのあたりも押さえております。

委員

上水と違って下水は腐食が機械に対してダメージが大きいので、そういうところで実際に機械がどうなっているだろうというのが心配になり、質問させていただきました。どうもありがとうございます。

事務局

補足ですが、長寿命化は、計画に基づいた標準耐用年数とかでの交換する方法もありますし、ポンプ場については重要な施設になりますので、日々の日常点検も行っており、日常点検で問題や不具合が発生したところについて、速やかに修繕し、寿命を少しずつ延ばしているという方法もあります。計画的なものと、日々の点検、両方の観点から維持管理を進めています。

会長

その他いかがでしょうか。それでは他にご質問がないようですので、次第の3「その他」は終わらせていただきます。最後に各委員の皆様方から何かございますでしょうか。

委員

広報紙の第1号がでたときに、年1回発行と書いてあったのですが、今回は2回目ですね。良い方向だから良いのですが、何かあったのでしょうか。

事務局

年度の考え方で、最初の第1号については、この3月に令和5年度中に1号を出したいということで発行しました。今回9月に出すものは、令和6年度分ということで発行しておりまして、4月から3月の年度、各年度で1号発行していく考えでございます。

委員

こういう防災対策ということで発行されたことによって、1人でも多くの人に興味を持っていただければと思います。下水道の費用も今後は上がると思うのですが、いきなり何で上げるのということではなく、困りそうだということをみんなに知っていただければ、値上げされても仕方がない、ということになるのではないかと思います。発行された方がいいのではと思いました。

事務局

ご意見ありがとうございます。

会長

委員の皆様には、会議の円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。

事務局

西田会長には、議長を務めていただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回平塚市下水道運営審議会を閉会とさせていただきます。委員の皆様、本日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。